

授業研究会

1 授業者反省

(1) 学級担任

「まとめる」過程を変更した。

導入の仕方をいろいろ考えさせられた。

「調べる」過程で、ペアごとに差が出てしまったので、もう少し配慮すべきだった。3人組でも良かったかもしれない。

真っ直ぐ測ったものと斜めに測ったものの差があまりなかった。他の教材を使えば良かった。

(2) 指導方法改善加配

手順カードを貼り忘れた。

子どもたちの活動意欲がとても高かった。

時間配分をもう少し考えるべきだった。テープ図を貼る作業に時間がかかった。

子どもたちを引き付けるまとめの工夫をすれば良かった。(子どもが飽きていた)

2 質疑応答

Q 1 : T 1 , T 2 の役割の基本的な考え方は？

A : 導入は、子どもたちが落ち着くように担任が行った。

一人が話をするときには、一人がサブの役割をした。(提示物を貼るなど)

測るものも3つずつ分担して支援を行うことにした。

Q 2 : 調べる活動の中で、子どもたちの活動をどのように評価していったか。

(観察・発表とあるが・・・)

A : 授業者は評価用補助簿(ペアごとに名前)を用意し、うまくできていない子どもをチェックしようとしたが、時間内に記録できなかったため、後で2人の教師で情報交換しながら評価する予定である。(授業中の評価は難しい。)

Q 3 : 測るものを6つ用意した理由は何か。その他に考えていたものはないか。

A : 子どもたちの意欲を高めるために、子どもに測りたいもののアンケートをとった。

(アンケートの中には、椅子や教室にあるものがいくつかあった。)

ドアが開いているところは、空間なので、難しいと考えドアの横の長さにした。

Q 4 : 長さ比べを最初に予想させても良かったのではないか。

長さをうつして切り取ったテープと、切り取ったあまりのテープを比べて、「どっちかな」と考えさせることも必要だったかもしれない。

A : 1年生の活動能力とこの学習が「量」との初めての出会いの学習であること等を考え、予想まではさせなかった。

Q 5 : 正しい測り方を確認してから、「まとめる」で再度確認することになったが、何か意図があったのか。

A : 子どもたちに十分理解させたいというねらいがあった。しかし、時間的な余裕があまりなかったため、その点については工夫しても良かったかもしれない。

3 研究討議

(1) 中学年より

今日の授業はTTの形態だったので、実施可能だったと思う。

今日の学習のような経験をすることが、豊かな量感につながるのではないか。

ゴミ箱とドアの横の長さが同じくらいだとは大人にも分からない。

子どもたちは、「測る」という意識を持っていたのか。ただ、測ることを模倣していたのではないか。

(2) 低学年より

子どもの実態に合わせて、2人組ではなく3人組にしても良かったのかもしれない。

辞典の厚さを測るのに、辞典を立てて、厚さではないところを測っていたペアもいた。

(3) 高学年より

子どもが意欲的に活動していた。

準備や細かな配慮がなされていた。

ドアとゴミ箱の予想をさせると良かったある。

できあがった表を全体で見て、話し合っても良かった。

教師2人が違う意見を言ったり、関わり合ったりして、子どもたちに考えさせる(葛藤)させる場があっても良かったのではないか。

単元や発達段階に応じて、指導形態と授業形態を考えていく必要がある。

4 指導助言

(1) 量感について(長さ, 重さ, 広さ)

「比べる」と「測る」のちがいが大切

		任意単位による直接測定
	直接測定	普遍単位による直接測定
<u>比較</u>	直接比較	<u>測定</u>
	間接比較(本時)	間接測定

本時は、「比較」なので、できれば「測る」という言葉は使わない方が良かった。

(本時は、「長さをテープにうつしとる活動」である。)

量感を経験値なので、本時のような授業は、準備が大変だがとても必要な学習だった。次は、教室で出来る内容を考えられるといい。

測るものの中に、体の部分があると良かった。(任意単位の測定へつながる。)

本時は、「全体」が大事。「どれが一番長いのか。」ということにこだわって子どもの活動を工夫できれば良かった。

本時のキーワードは「まっすぐ」と「そろえる」だった。「まっすぐ」は斜めでも「まっすぐ」になるので、「ピンとはる」と言い換える。

1年生の活動能力を考えた場合、テープをはったり、はしっこを合わせたりすることは難しいが、難しいことを実際にやってみて分かる。

(2) TT指導の在り方について

基本は「ボケ」と「ツッコミ」

T1（主導）とT2（お助けマン）

コンビネーション（T2がT1の指導の活性化；～しましょう。そうしましょう。）

2人で意見が分かれる（子どもを葛藤させる）



授業の**全体像**と**部分**を組み立てていく。

今日は2人のコンビネーションが良かった。1人が授業をひっぱり、もう1人がていねいに支援していた。

5 おわりのことば（校長）

子どもの意欲を高め、授業が盛り上がるような発問の仕方を工夫しなければならない。

子どもに、この時間に何をつかませたいのか、ビジョンをはっきりさせておくことが必要。

子どもの実態を把握してから、経験（活動）させるための準備をしていくことが必要。

TTの指導では、1人の教師が話している時は、もう1人は子どもに話しかけないなど、子どもの思考の邪魔をしないように心がける。

子どもの発想を大切にしてほしい。